

重点戦略	明日を拓く成長戦略
プロジェクト	フードバレーとちぎプロジェクト

1 プロジェクトの概要

目 標	本県の良質で豊かな水や農林水産物を活かし、食品産業など地域に密着した内需型の産業を振興することにより、国内外の経済環境の変化に対応できる厚みのある産業構造の構築を図ります。
重点的取組	☆フードバレーとちぎの推進

2 成果指標等の状況

成果指標	基準 ・全国平均 ・全国順位	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	目標 H 2 7
①食料品製造業の付加価値額	1,766億円 (H20) 1,850億円 18位	1,835億円 1,833億円 17位	1,957億円 1,843億円 15位					1,854億円
出典：経済産業省 工業統計調査	達成見込							

(注) 目標達成見込の判断  : 概ね順調  : やや遅れている  : 遅れている

【成果指標の分析】

- ① 産学官連携による新商品・新技術の開発研究や、フードバレーとちぎ農商工ファンド等各種事業を活用した商品開発等への支援により、食料品製造業の付加価値額の増加に繋がりました。

【県民満足度調査結果】

フードバレーとちぎの推進 12位(33位)



■ 満足 ■ どちらかといえば満足 ■ どちらともいえない ■ どちらかといえば不満 ■ 不満

※順位は、「満足」及び「どちらかといえば満足」と回答した割合をもとに順位付けした。()内は昨年度の順位。

3 主な取組成果

【成 果】
☆フードバレーとちぎの推進
○産学官連携による商品開発・技術開発、海外市場も視野に入れた販路開拓、とちぎの強みを活かした企業誘致、農業をはじめとする関連産業の高付加価値化
《主な取組》 ①食品関連企業や農林漁業者、大学、試験研究機関等の連携による新商品開発・新技術開発の支援の充実 機能性食品や付加価値の高い食品の開発、県産農産物利用拡大のため、フードバレーとちぎ推進協議会に研究部会を設置し、産学官連携による新商品・新技術の研究開発を行ったほか、「売れる」商品づくりのためのハンズオン支援として、無料相談会の開催（2回 28会員）や個別支援（20会員）を行いました。 ②フードバレーとちぎ農商工ファンドを活用した新商品開発や国内外への販路開拓に対する支援 フードバレーとちぎ農商工ファンド等による商品開発への助成（7件）や販路開拓への助成（2件）を行ったほか、都内において「とちぎのいいもの」まるごと商談会の開催、知事によるプレゼンテーション及び食品関係のバイヤー（約200名）を対象に商談会を実施しました。 また県産品の販路開拓、風評被害払拭のため、香港での展示商談会への出展（5社・団体）や香港企業（6社）との商談を実施しました。 ③食品製造関連企業誘致の推進 栃木県産業集積活性化基本計画に基づき、食品関連の企業立地計画3件、事業高度化計画2件を承認することにより、企業立地促進法に基づく低利融資の活用を支援しました。 ④農業者自らが加工・販売に取り組む農業の6次産業化の推進 6次産業化総合化計画を策定しようとする事業者に対し、国の設置する6次産業化プランナーと連携しながら策定を支援することにより、県内5件の農業生産法人等が計画の認定を受けたほか、新たな加工・販売などを開始する農業者等の取組を公募し、商品の試作や加工に必要な機器の整備など5件を支援しました。